るかどうか、左表を見ることにして貰ひたい。

		六年平均	七年平均	八年平均
總指數	勞働人員	七四・四	七四・七	八一・九
	定額賃銀	九一・三	八八・一	八五・一
	實收賃銀	九〇・七	八八・一	八九・二
男工	勞働人員	八一・〇	七九・〇	八七・〇
	定額賃銀	九一・五	八八・八	八六・二
	實收賃銀	九二・〇	九二・七	九五・一
女工	勞働人員	六八・〇	七〇・六	七六・八
	定額賃銀	八七・九	八三・四	七九・九
	實收賃銀	七七・四	七〇・九	六八・四

右表は大正十五年を基準としたので、一年の平均指數である。これによるとインフレ景氣は正に勞働人員に示されてゐる。從つて失業を緩和したこと丈けはハッキリ

と謂ひ得ることが出來る。しかし賃銀の方は就業增加に比してひどく遲れてゐる。遲れてゐる所ではない昭和七年の賃銀は六年よりも、定額賃銀も實質收入も低下してゐる。昭和八年は七年に比して實質收入は一ポイント向上したけれども、定額賃銀は三ポイントも下つてゐる。この實質收入の增加は時間外勞働の結果で、賃銀が上昇したのではないのだ。

これでは勞働者にとつて、インフレの春はどこにもない。唯、臨時工の增加と、殘業の強要と、古い高級の勞働者が解雇の危機に直面してゐる丈けだ、しかし若しも物價が下向きの場合ならば、賃銀が幾分低下しても物價安で相殺されるが、今度は反對に物價が上向いてゐる。

	定額賃銀	實收賃銀	日雇小賃指數
六年	九一・三	九〇・七	六八
七年	八八・一	八八・一	六九
八年	八五・一	八九・二	七三